

WHO ファクトシート

レジオネラ症

Legionellosis

2017年11月

重要な事実

- ・レジオネラ菌は、1976年アメリカのコンベンションセンターで発生した重症肺炎の集団発生の原因菌として1977年に初めて確認された。
- ・レジオネラ菌の最も一般的な伝染経路は、水の飛沫やジェット噴射、噴霧等によってできる汚染した微小水滴の吸引である。また、特に感染しやすい入院患者などが、汚染された水を吸引することでも起こることがある。
- ・レジオネラ症の潜伏期間は、2～10日である。(但し、いくつかの流行では最大16日の潜伏期間が確認されている)
- ・死亡は、進行性肺炎による呼吸不全、ショック状態や多臓器不全により起こる。
- ・通常、レジオネラ症の治療を受けなかった場合は、最初の1週間の間に悪化する。
- ・報告症例の75～80%は50歳を超えた人々であり、60～70%は男性である。

本件ファクトシートについて、厚生労働省検疫所ホームページの[こちら](#)では全文の日本語訳が公開されていますので、ご参照下さい

© World Health Organization

この文章は、日本WHO協会がWHOのメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分について、2014年3月にWHO本部より付与された翻訳権に基づき作成したものです。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含めWHOホームページでの原文をご確認ください。

Legionellosis

ファクトシート原文は [こちら](#)